

よくわかる皮膚科学

タンパク質の糖化

皮膚の老化は、その原因により二つに分けられます。一つは光老化で紫外線により起こる老化です。もう一つは、生理的老化で生理機能の低下によるもので、体の内部から起こります。



生理的老化はタンパク質の衰え、つまりタンパク質の機能が徐々に奪われていくことです。機能の低下は、たんぱく質が糖質を介して架橋結合することによっておこると言われています。この説を架橋説、出来た架橋を老化架橋、この架橋を作る反応をメイラード反応または「糖化」と呼んでいます。

つまり糖化とは、過剰に摂取したブドウ糖や果糖がタンパク質(皮膚の場合はコラーゲンが主体)と結合し、コラーゲン間に架橋を形成し、AGEsと呼ばれる糖化最終生成物という老化原因物質を作りだす作用のことです。活性酸素による細胞の酸化を「体のサビ」と呼ぶのに対し、糖化は「体のコゲ」と呼ばれており、AGEsは体外に排泄されず蓄積されます。この現象は年を重ねるほど顕著に表れ、様々な病気の原因ともいわれています。

このAGEsは、毛根内に炎症性サイトカインを増殖させ、髪を作る働きを低下させることから、「糖化性脱毛症」とも近年言われています。また、AGEsは、髪の色素「メラニン」を産生する細胞の働きを抑制し、白髪の原因にもつながります。

しかし、近年AGEsの産生を阻害する働きを有する植物エキ스가発見され、糖化による様々な弊害を防ぐことも可能な時代が来ているようです。

ご愛用者からのご感想掲示板

二十年愛用し、感謝です！
神戸市 K・Iさん (男) 会社役員

三十代の半ばに前髪が薄くなりかけた時、美容院の方に王将セレクトCRを勧められ使用させていただき、以来二十年愛用しています。お陰様で禿げずに済んでいます。有難うございます。

九十歳の今も毛量変わらず！

愛媛・今治市 R・Mさん (女) 美容師
薬用UIHを十年近く愛用し、現在九十歳になりました。お陰様で髪量はあまり少なくなっておりません。続いて愛用するつもりです。

ハリ・コシがしっかりと！

静岡・浜松市 Y・Nさん (女) 会社経営
髪が細くてやせてしまい、困っていたところ、美容院で王将エクストラRを勧めてもらい、今ではハリ・コシがしっかりとできてとても毎日うれしいです。有難うございました。

現状を維持しています！

北海道・札幌市 I・Mさん (女)
いつも行っている美容室で王将エクストラRを勧められ、もう六七年使用しています。髪が細くボリュームが段々なくなってくる年齢(七十四)ですが、今のところ持ちこたえています。有難うございます。

効果の現れかたには個人差がありますが、そのご紹介したご感想は、製品の効果を必ずしも保証するものではありません。



東洋医学による健康法

夏の耳鳴り対策の巻
中医師 黄 懐龍



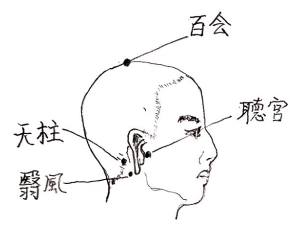
蝉の鳴き声は真夏のシンボルで、大自然の音楽を楽しんで鑑賞出来ますが、常に変な音が耳の奥で鳴り出すのは嫌ですね。この症状は耳鳴りです。つまり、実際に音源がないのに何らかの音が聞こえることを耳鳴りと称し、たいへん多くの人が悩んでおられます。耳鳴りを訴える患者は大学病院耳鼻科では30%、他の統計では人口の約17%が耳鳴りを経験し、高齢者では33%、その中で約5%の人が耳鳴りのために生活に支障を来していると言われています。

耳鳴りは、大きく二種類に分けられます。一つ目は本人にしか聞こえないもので、自覚的耳鳴りといいますが、殆どのケースはこの種類で、色々な検査を行っても実際に耳鳴り音を確認できないために、診断と治療が非常に難しいものです。もう一つは聴診器等で他の人も聞くことが出来るもので、他覚的耳鳴りといいますが、主に血管の雑音や、顎の関節の音、咽頭や口蓋の近く、耳中の筋肉が痙攣する音などがあります。この中に心拍と同調する耳鳴りの一部に、脳腫瘍や血管病変に起因するものがあり、注意が必要です。

耳鳴りを引き起こす疾患は、外耳炎、中耳炎、突発性難聴、メニエール病、音響外傷、老人性難聴、聴神経腫瘍などの病気で、何らかの難聴を伴うことが多いようです。全身性病気に伴う耳鳴りは、高血圧などの脳循環障害、甲状腺機能亢進などホルモン異常、アレルギー、糖尿病などの代謝障害、神経症や仮面うつ病などの心因性の病気に起因します。しかし原因となる病気がなく、臨床検査では正常でも耳鳴りを訴えるケースがよくあります。耳鳴りは自覚的な訴えであり、他覚的に耳鳴りをとらえる検査は難しく、耳鳴りの仕組みは今でもわかっていませんので、完全治癒も難しいのが現状です。

治療は原因さえわかれば、原因疾患を治療することによって耳鳴りも軽快することが多いです。よく使われる薬物療法として、代謝改善剤、循環改善剤、ビタミン剤、血管拡張剤、抗けいれん剤、漢方薬等の内服を投与します。

1. 聴宮：耳のすぐ前の耳珠(軟らかい小さな突起)の前のくぼみ。
2. 百会：左右の耳上端部真直ぐ頭に沿って結んだ線と正中線の交わる場所
3. 天柱：耳の後ろ、丸い骨の下側のくぼみ
4. 翳風：耳たぶの後ろのくぼみにある。



耳鳴りによる不安や不眠が強い時には、精神安定剤や睡眠薬の内服を投与することもあります。さらには耳鳴りの抑圧療法、心理療法があります。日常対策ではまず耳鼻咽喉科で診察を受け、原因疾患を積極的に治療します。心配のない耳鳴りだったら、精神養生して、睡眠時間を増やしてください。また、過労を避けストレスをためないようにすることも大切です。さらに、バランスのよい食事を心掛けたら、特に神経の代謝を良くするビタミンB1、B6、B12やタンパク質などと、脳神経の興奮を和らげてくれるカルシウム、貧血を予防する鉄分などをとることが予防には欠かせません。また、軽い運動を勧めます。特に景色を楽しみながらウォーキングすれば、心身ともにリラックスします。

中医学では耳鳴りを急性と慢性に分けて弁証論治し、急性耳鳴りの多くは肝胆経絡に湿熱が詰まると考え慢性は腎気虚弱、気滞血瘀によるものと考えられています。治療は清利肝胆湿熱・補益腎気・活血通絡などの方法を用います。ここで耳鳴りによく使われる指圧マッサージ方法を紹介します。

以下のツボに両手指で同時に押し揉んだりして下さい。これにより、内耳、聴神経など周囲の血行をよくし、炎症の解消を促進し、聴神経の働きを正常に調節させ耳鳴りの効果を期待します。

★ツボ探す時に用いる一寸とは、親指の関節部横幅の長さです。三寸は、親指を除く4本指の幅です。